開催場所　芽室町役場　地下第2･3会議室

開催日時　令和元年12月20日（金）10:00～11:00

参加者　　堀　文宏部会長、阿部　織尊副部会長

金津谷　博一、古館　明洋、高田　英寿、桝谷　英生

事務局　　次田土地改良係長、阿部主事、河内主査、藤村技師

**事務局より検討項目１の土づくり対策の説明を終えて**

堀　部会長：

検討項目１について説明が終わりました。御意見、御質問等はありませんか。

堀　部会長：

堆肥センターの修繕費が増加しているとあるが、どれくらいの修繕費なのか。

阿部主事、次田土地改良係長：

Ｈ３１年度は未定であるが、Ｈ３０年度は約２，４５０万円、Ｈ２９年度は約２００万円であるが、その年によって修繕費にバラつきがある。年々増加している傾向がある。

堀　部会長：

その修繕についてであるが、計画的な修繕なのか、それとも突発的な修繕なのか。また、修繕費の予算額は堆肥代の徴収額に関係しているのか。最近堆肥代の単価が高くなっているのは、修繕費が増加しているからなのか。

阿部主事：

修繕内容については、計画的なものもあれば突発的なものもある。①修繕費が増加していることから、堆肥代が高くなっている、または予算を多く確保する必要があるのかどうかは、次の部会までに調べておく。

阿部　副部会長：

堆肥センターは、建設された当時、耐久年数を何年で考えていたのか。

次田土地改良係長：

耐久年数はあると思うが、当初の計画では何年まで使うという明記はないと考えられ、随時修繕等を行い運用していくという扱いであったと想定される。しかしながら、堆肥の量に関しては、計画時よりも増えていると思われるので、そういった事も踏まえ施策の方向性、農業振興計画に盛り込んでいきたいと考えている。需要はかなりあるのだろうか？

阿部　副部会長：

増加傾向にあることは、間違いないと思う。ビートが今後減るということは、堆肥はより必要になっていくと考えている。新しく建設するといっても、費用が莫大になることから、そこが難しいと考えている。

次田土地改良係長：

そういった意味でいけば、施策の方向性２つ目に関しての考え方は間違っていないと思う。堆肥のニーズが高まっている中、どうすべきかを皆さんで考えていきたい。

高田　英寿：

有畜農家が少ないとあるが、堆肥センターを増強したとしても、堆肥を作る量（糞尿）が集まらないと意味がないのではないか。

阿部主事：

町内の家畜糞尿だけではなく、町外からも集めている状況であるため、量としては足りている。②しかし、増強した時に量が足りるかという事に関しては不明であるため、基礎資料等を踏まえて今後の見込み等に関して調べておく。

堀　部会長：

堆肥センターの維持管理は、修繕対応が適しているのか。堆肥を扱っていることから、耐久年数は少し早まっているかもしれないが、もう改築を検討する時期にきているということはないか。

次田土地改良係長：

堆肥センターをなくすという事には当然ならないことから、基礎資料として調べる事はこちらで調べて、施策の方向性につなげていきたい。

金津谷　博一：

堆肥製造に関して、高収益作物の残渣も受け入れて、町外からの残渣についても処理を行うというようなサイクルを確立するのか。

阿部主事、次田土地改良係長：

現状はそれも受け入れている。より良い堆肥センターにしていくために、施策の方向性につなげていきたい。

阿部　副部会長：

現状の課題として、散布する期間が集中してしまっているし、散布する機械が間に合っていない。そのため、堆肥を散布できる状況を早急に確立させる必要がある。一方で、堆肥散布のための作業受託制度を確立させたとしても、需要と供給のバランスが必要であり、制度をパンクさせたら意味がないことから、制度確立するためには一日の散布量などをしっかり把握して行う事が望ましい。

次田土地改良係長：

貴重な御意見である。そういった意見も取り入れて、施策の方向性に取り入れていきたい。

堀　部会長：

他の市町村では、受託制度を取り入れているところはあるのか。

阿部主事：

やっているところはあると思う。

桝谷　英生：

帯広でも同様に散布したいけど、散布できないという課題があり、帯広市ではコントラクター組織で受託制度が存在する。システムとしては、トラクターとショベルがセットであり、堆肥だけ圃場にあれば散布してもらえるものである。農家同士でやっている場合もある。

次田土地改良係長：

③そういった内容についても事務局で取りまとめを行い、次回の部会までに追記していきたい。

堀　部会長：

　課題２の方は、何か意見等はないか。

（質問など無し）

**事務局より検討項目２の土地改良事業の説明を終えて**

堀　部会長：

検討項目２について説明が終わりました。御意見、御質問等はありませんか。

堀　部会長：

リールマシン等の推進とは、順番に回るような形式になるのか。近年の干ばつ化により、リールマシンの需要が増えていると考える。

次田土地改良係長：

リールマシンの整備は、受益者負担が少ない道営土地改良事業でのみ整備が可能となっている。農村地域を巡回する形で行っていることから、その順番を待って事業活用をすることが有効であると考える。

堀　部会長：

前回リールマシンを導入してから、どれくらい経っているのか。

次田土地改良係長：

芽室町の道営事業の整備地区に関しては、基礎資料 参考図７を参照願いたい。

堀　部会長：

　またその地区が来るときに、取りまとめを行う形になるのか。

次田土地改良係長：

そのような形式になると思う。リールマシンの需要はあると捉えているのか。

堀　部会長：

　春先の干ばつもそうだし、需要はあると思う。また、整備した時には、必要ないと思った人も今では必要であるという人もいる。順番で回ってきた場合は、申し込む人が増えると思う。どのような予定でいるか、先の話は分からないかもしれないが、町として事業スケジュールは立てているのか。

次田土地改良係長：

内部資料ではあるが、基礎資料 参考図８のような計画がある。そのため農業振興計画には、このような中長期計画の策定を盛り込むのが良いと考えている。

阿部　副部会長：

　農業用水を設置していない人は地区にはいないと思う。メインパイプの修繕は必要であるが、リールマシンの整備よりも取出し口（取水栓）を先に整備することが重要であると考える。現状では、取水栓が遠いなどの問題が生じている。リールマシンは中古でも可能であるが、取水栓の整備を先に行うことはできないか。

堀　部会長：

　今言った話も、道営事業で整備することになるのか。それとも自費で工事することになるのか。

次田土地改良係長：

取水栓も、道営事業で同様に整備することになる。自費でやることも問題ないが、今聞いた話も踏まえて、施策の方向性に反映していきたい。現状はどのような使用方法なのか。

阿部　副部会長、堀　部会長：

　ホースを口から少し遠いところで使用しており、地上配管については本当に遠いところで使用している状況である。あとは、取水栓が多くあれば問題ないというようなところ。

次田土地改良係長：

現状進んでいる道営事業は、取水栓がここにいくつ欲しい等の要望を上げてもらって整備しているので、取水栓の設置に関しては事業が来れば問題なく実施できる。

金津谷　博一：

　受益者が決める事であるが、地上配管をするのか取水栓を設置するのかに関しては、受益者が選択できる。地上配管を配管する手間を考えれば取水栓を設置したい、その代わり取水栓が畑にあると邪魔だという場合もある。帯広で実施している地区に関しては、取水栓を多く設置している場合が主流にはなっている。道営事業は、負担率が少ないことから有効に使用してくれればと思う。地区整備が決まった時にその点に関しては要望してもらいたい。

阿部　副部会長：

　道営事業は、２０年に１度のペースのため、次の事業が来たときには必ずやりたいという風に考えている。

次田土地改良係長：

基礎資料 Ｐ２５にあるが、事業ごとに事業主体が異なっている。このような事業をしっかり組み合わせて実施していきたいと考えている。特に団体営事業に関しては、小規模の事業対象として、④スポット的に実施できることが可能となれば、整備の要望にかなえることが出来ると考えているため、そういった内容を施策の方向性に盛り込んでいきたい。

金津谷　博一：

今の畑かんの話もあるが、大雨の対策としては暗渠対策が有効である。暗渠を整備するには、まずは明渠排水路の整備が必要である。農業用排水路・区画整理（畑の傾斜や沢を埋めるなど）を整備する場合には、隣の畑と一緒に整備するのが有効など、それぞれに関して何かを整備するには一連で整備が必要となることから、地域で協力し合いながら整備をする必要があり、それが理想であると思う。

阿部　副部会長：

　現状でも地形の高いところに明渠があって、農地の方が低い箇所に水がたまるような地形になっているところもある。せっかく整備してもらうのに、そういったところがあるともったいないので、事業整備するには隣同士で話し合いながら、やるのが良いと思う。

金津谷　博一：

事業をやるときに、そういう問題点も町が中心となってやっていただくのが良いと考えている。

次田土地改良係長：

町では道営事業が一巡しているが、各事業工種において、それぞれ要望があるという事をしっかり念頭におき、事業を計画的に進めていく必要があると認識している。

阿部　副部会長：

⑤農業土木に関して施工を出来る業者を一覧表で分かれば助かる。自分たちで個人的に業者に頼んで実施するときに便利であることから、選択肢があれば助かる。また、その工事をやるにあたっても、もし補助があればその案内もいただけると助かる。

次田土地改良係長：

基礎資料 参考図８のように中長期計画があれば、事業が近くに来るなどが分かり、自分で業者に発注する目安になると思われるので、中長期計画の資料は必要になるという事で了解した。

堀　部会長：

　基礎資料 参考図１の芽室川西地区に関しては、暗渠等の整備を行うことが出来るのか。

次田土地改良係長：

　暗渠等の面整備を行うことは出来なく、面整備では道営事業メインとなる。基礎資料 参考図７を参照願いたい。なお、芽室川西地区に関しては、新たに美生ダムから帯広川西地区まで管路を整備することになるのが主な事業になる。また、美生ダムの老朽化している機器についても更新する予定である。

堀　部会長：

　その他に御意見・御質問等はありますか。

　（質問など無し）

次田土地改良係長：

今、議論していただいたことを踏まえて、事務局で資料整理を行いたい。また、アンケート調査については、実施しないことについて説明。

堀　部会長：

　実施しないことで了解。自分たちの役割としては、こういう話があったということを地域に話して、何かあればまたこの部会で話し合うという立場で良いのか。

次田土地改良係長：

色々な意見があれば、それに関しては言っていただいて構わない。

堀　部会長：

　アンケートを実施しないことに関して何かありますか。

　（質問など無し）

次田土地改良係長：

　今回の部会の内容をまとめ、計画素案なども整理して、次回の部会を開催したいと考えている。

連絡事項において、次回部会は令和２年２月４日（火）１０：００と決定したい。